

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891300075
法人名	医療法人 明生会
事業所名	グループホームこもれびの家
所在地	愛媛県四国中央市下柏町54番地1
自己評価作成日	H25年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年2月21日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

広い窓から四季の風景を眺めることができ、天候や自然の移り変わりがよくわかり、ウッドデッキとゆったりとした環境の中「いつも一緒・楽しく・ゆっくりと」「人と人の結びつきを大切に」を心がけ利用者様と共に生活しています。季節の食材を使いバランスのとれた食事・季節感を味わって頂けるよう利用者様と一緒に作り食を楽しんでいます。地域の方・ボランティアの方々との訪問を大切に交流を行っています。母体が病院でいつでも受診でき、また訪問看護と連携をとり適切な受診や看護を受けられるよう支援を行っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●「家族会」は、年3回ほど開催されており、誕生会やボランティアの訪問等と日時を合わせ、多くのご家族に来ていただけるよう計画されており、毎回、ほぼ全員のご家族の参加がある。  
●「今月の行事予定」は、利用者が毛笔で書いてくださっている。廊下や居間の壁には、行事の写真を貼ったコルクボードが掛けられている。畳コーナーは、掘りごたつになっており、昼食後、こたつに入って新聞を読む利用者がおられた。又、ご家族の訪問があり、こたつを囲んでお茶を飲みながら会話を楽しまれる利用者の様子がうかがえた。ソファのコーナーでは、人形を抱いてウトウトする利用者も見られた。暖かい季節には、ウッドデッキで昼食を食べたり、夏にはそうめん流しもされた。

### V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. <b>利用者の1/3くらい</b> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. <b>家族の2/3くらい</b> 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. <b>たまにある</b> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. <b>たまに</b> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. <b>利用者の1/3くらい</b> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. <b>少しずつ増えている</b> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. <b>利用者の1/3くらい</b> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. <b>職員の1/3くらい</b> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. <b>利用者の1/3くらい</b> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. <b>家族等の2/3くらい</b> 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームこもればの家

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

加地正子

評価完了日

平成25年2月1日

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員はもとより訪問者の目にも止まりやすい位置に掲示している。月に一度のミーティングでも確認し、その都度原点に戻り理解と共有を意識づけケアへと繋げるよう心がけている。	
			(外部評価) 事業所は、『穏やかでやすらぎのある暮らし』『生活に張り合いや楽しみのある暮らし』を目指すところとされ、「いつも一緒・楽しく・ゆっくりと」「人と人との結びつきを大切に」と理念を掲げておられる。理念は、玄関や事務所に掲示され、月に1度のミーティング時、全職員で唱和して、日々のケア等の振り返りの機会とされている。事業所では利用者の思いを知り、希望を叶える取り組みをすすめておられ、「あせらず・あわてず・あきらめず・あかるく・あたたかく」という『5つのあ』を実践するように努めておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運営推進会議などで地域の行事、リボン細工などを教えて下さる方を紹介いただき、利用者様と飾り物を作り楽しむ事ができた。またソーメン流しや音楽療法カノン等行事に近所のお母さんと子供たちが参加して下さりそれをきっかけに子供たちが遊びに来てくれ、利用者様と交流を深めている。	
			(外部評価) 昨夏、近所の子ども達が、事業所のウッドデッキの近くで遊んでいた時に、職員が声をかけると中に入って、利用者とはたいへん喜ばれたことがある。それをきっかけに、そうめん流しの案内をすると、4名の子ども達が母親と一緒に参加された。利用者は、子ども達と一緒に七夕飾りを作ったり、ボール遊びをする等、楽しい時間を過ごされた。その後、時々遊びに来て、洗濯物を利用者と一緒にとたんでくれたり、大正琴を利用者と一緒で弾く等してふれ合う機会があったが、現在は交流が途切れているようだ。ご自宅で採れた野菜等を届けてくださる方は、事業所の畑で「芋のつるさし」を手伝ってくださる。民生委員が紹介して下さった水引細工のボランティアの方が来られ、小物作りを教えてくださいたり、音楽療法やフォークダンス、日舞を披露して下さるボランティアもある。「童謡唱歌の会」のボランティアは、開設時より毎年1回継続して来てくださっており、今年で6回目になる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議や家族会等を活用し、認知症の人の理解を深めていただけるよう働きかけている。地域への貢献はできてあまり]できていない。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームでの生活状況や問題点等の報告や話し合いを行い、助言や地域の情報を得ている。頂いた意見を取り入れサービス向上に努めている。秋祭りに地域の子供太鼓が今年も近くまで来て下さりお祭りを楽しむ事ができた。地域の方に避難訓練の様子を見て頂き、消防署の方の話を一緒に聞くことができた。	
			(外部評価) 会議は、基本的に奇数月の第3木曜日に決めて開催されており、民生委員や近所の方、自治会の「広報委員」の方にも参加していただいている。ご家族全員に案内し、多い時には5名ほどの方が参加されている。議事録もみなさんに郵送され、会議内容を知っていただいている。前回の外部評価実施後の会議では、「自己評価及び外部評価結果表」を参加者に見ていただきながら、期待したい内容に挙げた項目について説明を行ない意見をうかがった。会議を通して民生委員からボランティアの紹介をしていただいたり、地域行事の案内をしてくださることもある。管理者は、今後、「地域の方に認知症について知っていただけるような会議内容にも取り組んでいきたい」と話しておられた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 月に1回ふれあい相談員さんの訪問がある。運営推進会議に高齢介護課の方が参加してくれている。市町村の行事にも出来るだけ参加し協力関係を築けるよう努めている。毎月のグループホーム便りを市に送っている。	
			(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者に、毎月発行する事業所便りを2ヶ月分渡して、事業所の取組みを知ってもらえるよう取り組まれており、「様子がよくわかる。」と感想をいただいたこともある。介護相談員の訪問は、通常午後からの訪問であるが、「朝の様子も見てみたい」とのことから、午前中に訪問して下さったこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員は身体拘束について理解しているが、転倒の危険性の高い利用者を見守りが不十分になると判断した場合のみ、食堂の椅子を固定させていただくことがある。家族にも説明し理解いただいている。玄関は帰宅願望の強い方はいなくオープンに出来ている。	
			(外部評価) 日中、玄関の施錠はされていない。玄関と非常口は、人の気配を感知して、チャイムが鳴るようになっている。ひとりでの歩行が難しい方で、居間で過ごす際、職員の目が行き届かないような時には、ご本人が椅子から立ち上がってもその場から離れることができないような椅子の配置にする場合もある。夜間やお昼寝等で居室で過ごす際、転倒の心配がある利用者には、ベッド横等にセンサーマットを設置されている。今後も拘束をしないケアの実践に向けて、職員でいろいろなアイデアを出し合い、試していかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  常に更衣時や入浴時に異常がないか気をつけている。小さな気づきも日誌などで申し送り職員間で情報を共有し全員で注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  権利擁護に関する制度の理解はできているが、職員の異動や新しい職員も増え、今後研修の機会を設けたい。現在活用されている方はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時に重要事項説明書などで説明を行い、理解、納得を得ている。また不安や疑問点を聞き取り説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  面会時や家族会などに気軽に話せるような雰囲気づくりに努めている。苦情については、書類に記し、管理者会議で報告し反映に努めている。意見箱の設置を行い意見を頂けるよう努めているが意見箱は活用されていない。	
			(外部評価)  ご家族に、毎月事業所便りを郵送されている。行事予定が書かれたお便りには、「ご家族の皆様も一緒にいかがですか?」と、気軽に来ていただけるように案内をされている。行事時の利用者の表情等がよくわかる写真を集めたお便りも作っておられる。「家族会」は、年3回ほど開催されており、誕生会やボランティアの訪問等と日時を合わせ、多くのご家族に来ていただけるよう計画されており、毎回、ほぼ全員のご家族の参加がある。前回の外部評価を受け、ご家族にアンケートを取られた際、家族会で家族同士の話し合う機会を持つことについての質問をされたが、ご家族からは、「今のままでよい」との答えが多かったようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>ミーティングで意見や提案を話し合ったり、個々の面接を通して聞く機会を設けている。そこで出た意見や提案は、法人のミーティングで伝え反映されるように努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>法人代表者の考えから、職員はみな常勤職員での構成になっている。職員個々に、写真掲示や食材、備品係等の役割があり、担当職員に任されている。利用者の誕生日には、利用者個々の担当職員がプレゼントを準備するようになっており、利用者の写真を貼ってメッセージを添えた色紙や、お花の好きな方には花瓶をプレゼントする等されている。職員は、介護技術等、自分自身が向上することで、「利用者も自分も、もっと楽しくなるのではないかと考えておられる。</p>	市のグループホーム交流会や法人全体の研修会等に順番で参加するようになっているが、人員のこともあつて研修参加の機会は、現在少なめのようだ。職員が学びたいこと等について研修計画を立てる等して、事業所内でも、さらなるスキルアップに向け、取り組まれてはどうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>半期ごとに自己目標を掲げ自己評価を行っている。業務内容の見直しは職員間で話し合い行っている。利用者様も高齢になりリスクが高くなってきており精神的な環境整備も必要になって来ている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>資格修得の支援をしてくれ、研修にも参加させてくれる。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>外部研修・相互研修・四国中央市GH交流会などに参加し、同業者と交流し情報交換の機会を持っている。研修で得た情報は、ミーティングなどで報告し話し合いサービスの向上に努めている。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>本人、家族から多くの情報と想いを聴くように努めている。入居後は日々の関わりを大切に、信頼関係が築けるよう、寄り添いを大切に、言葉や表情の変化を見逃さないように努めている。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 職員全員が面会時など家族と話しやすい雰囲気づくりに努めている。面会時などに近況報告を行い要望などを聴くことができるよう努めている。相談を受けた時は、傾聴し丁寧に対応し受け止めるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前の様子の情報収集を行い、職員間で協議し、見極め本人や家族の希望等を交えたサービス提供が出来るように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員間で話し合い、利用者の出来ること・得意なことを見極め、得意な事をお願いしたり、時には教えてもらい共に楽しく生活できるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の面会時には近況報告をし、通院、家族会、誕生会の参加を呼びかけ、共に支えていく関係を築いている。また利用者が不安になっている時など電話で利用者様と話してもらったり面会をお願いし協力を得ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人や家族から情報を得て馴染みの人に連絡し、誕生日を一緒に祝ってもらったり関係が途切れないように努めている。(年賀状・暑中見舞いを送付・馴染みの美容院など利用)またお友達に手紙を書くなど支援に努めている。 (外部評価) ご家族と定期的にお墓参りに出かけたり、行きつけの美容院に行かれる方もおられる。事業所に訪問して下さったボランティアに、利用者ど知り合いの方がおられ、涙の再会となり、その後、手紙のやりとりされたこともある。入居前からの趣味を通しての友人が訪問して下さったり、プレゼントや手紙のやりとりを続けている方もおられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ソファーに座る位置など配慮し寛げる雰囲気を作ったり、役割を個別に変えるなど、一人ひとりを理解しその時々のお思いに合わせた関わりを持ち孤立しないように努めているがレベルの違いがあり関わりが難しくなっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同法人の療養病棟に移られた方は時々面会に行くが相談や支援の機会はない。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で本人の思いを知り、ミーティング等で話し合い、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。体調の変化や表情などにも気を配りその人らしい生活ができるように努めている。 (外部評価) 事業所では、入居時に、これまでのご本人の生活歴について、「日課とされていることや好きな歌手、どんな口癖があるか」等、ご家族に記入していただき、入居後は、センター方式の私の姿と気持ちシートを応用した「今の私の姿です」という独自の様式を作り「嬉しいこと、楽しいこと、不安なこと」等の情報を集めておられる。	アセスメントを介護計画につなげて、事業所の目指すところである利用者個々の「生活に張り合いや楽しみのある暮らし」への支援に取り組んでいかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の会話での聞き取りや家族や親類の協力で得た情報(アセスメント表)を、職員間で共有するように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日誌や申し送りノート、バイタル測定状況など確認しながらスタッフ間で密に連絡を取り、小さな変化を見落とさないように、現状の把握に努めている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング                      本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)                      家族の面会時、家族会や運営推進会議の後、時間をつくり話し合い情報を得、本人やご家族の希望に添うようミーティングで話し合い介護計画を作成している。自分の意思を伝えられない方は健康面や少しでも良い表情をして頂けるように努めている。</p> <p>(外部評価)                      毎月、利用者個々の担当職員が主になって、計画のモニタリングや評価を実施し、3ヶ月毎の計画の見直しにつなげておられる。ご家族の来訪時等に暮らしの希望やケアへの要望等について聞いておられ、ご家族からは「不安なく楽しく生活してほしい」「できることはさせてほしい」等の希望も出される。そのような希望も踏まえてすべての職員でカンファレンスを行い、介護計画を作成されている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映                      日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)                      ケアプランの達成状況を日々記録しているので職員間で統一したケアの実践ができ、介護計画の見直しにも活かされている。日々の申し送りや日誌の確認を行い共有できるように努めている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化                      本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      本人や家族の状況に合わせ柔軟な対応が出来るよう心がけている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働                      一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)                      通所介護と交流があり時々一部の人ではあるが利用している。また学生ボランティア、地域の方の慰問(フラダンス・童謡唱歌の会・手品など)の協力を得ている。利用者様のレベルにあった支援の在り方が課題となっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人・家族が希望するかかりつけ医にて受診している。受診時には連絡ノートを使用し、必要に応じ受診時に同行し状況を伝えている。体調を崩した時など訪問看護に連絡をとり指示を仰ぎ支援している。	
			(外部評価) 定期受診は、基本的にご家族が付き添うようになっている。ご家族が遠方の方で、有償ボランティアを利用してタクシーで受診される方もおられる。受診時には、利用者個々に事業所での健康状態等を記入した「受診用ノート」を持参していただくよう用意されている。夜間の緊急時等は、母体法人である協力医療機関と連絡が取れるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 訪問看護、近隣の通所介護の看護職員とも連携を取り、適切な受診や看護が出来るよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時には情報を提供し、早期退院が出来るよう連絡を取り合っている。職員も面会に行き不安解消に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早い段階で本人、家族の意向を大切に、主治医とも相談「できること、できないこと」を見極め支援に取り組んでいきたい。	
			(外部評価) 事業所では、前回の外部評価を受け、ご家族に無記名でアンケートを取られ、「どこでどのように最期を迎えたいですか」という質問をされた。結果は、グループホームが3名、病院が5名であった。管理者は「医療行為が必要になってきたら、事業所での支援は難しい」「現在の職員の勤務体制等から、事業所での看とり支援は難しい」と話されていた。	「ホームで最期まで過ごしたい」と希望する利用者やご家族がいることを踏まえて、今後は、看とりについての研修を受講する機会を作ったり、又、看とり支援を実践している同業者の事例を聞くような機会等も作ってみてはどうだろうか。さらに、家族会や運営推進会議時の議題に挙げたり、職員でも事業所でできることを出しあい話し合う機会を作ってみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の救命講習を受けている職員はいるが、職員全員が対応できるよう講習参加し緊急時対応できるようにしたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回防火訓練を行っている。運営推進会議で防火訓練を行い、消防署の方のお話を地域の方と聞く事ができた。地域の方の協力体制も少しずつ築けてきている。	
			(外部評価) 年2回の火災を想定した避難訓練は、いずれも夜間想定で実施されている。7月、運営推進会議時に行った訓練では、ご家族や近所の方にも見学をしていただいた。ご家族より「逃げるのに歩行不安定な利用者が多くて大変ですが、車椅子は無いんですか。」との質問があり、管理者は「認知症のある方は車椅子に乗るのにも時間がかかるので、2人介助で歩く方が早く避難できる場合もある。」と説明して、ご家族も納得をされた。いざという時は、通報装置で近くにある法人デイサービスや法人理事長宅に連絡がいくようになっている。事業所では、長崎のグループホーム火災の後、加湿器や電気毛布、コタツ等、電気製品の点検を行なわれた。地震等の自然災害においては、地域の小学校が避難場所になっているが、今後は、利用者と避難経路を確認されたり、備蓄等についても法人全体で話し合われてみてはどうだろうか。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員間で話し合い、プライバシーを損なわない言葉かけや対応を心掛けている。時に職員のペースになっていることがあり注意したい。	
			(外部評価) 事業所では、ひとりで歩くことが難しい方には、職員が手を引いてゆっくりと歩いたり、トイレにもゆっくり座っていただけるよう、「ゆっくりと」支援するように取り組んでおられる。調査訪問時、職員が利用者の手を引いて、ゆっくりと廊下を歩く様子が何度となくうかがえた。食事時には、職員が利用者の横に座り、ゆっくりと介助をされる様子が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の思いや希望を表したり、自己決定出来るよう、声かけなど工夫している。日々の関わりの中で話かけやすい雰囲気づくり、思いを受け止めるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 無理な声かけはせず出来るだけ利用者の希望に沿った支援に努めているが、職員の勤務人数により、業務に追われ職員側の意向をあおることがある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時の整容、外出時に洋服を着替えるなどその人らしい身だしなみが出来るよう支援している。ご家族の協力を得て馴染みの美容院等を利用したり、家族が居室にてカットや毛染めをして下さっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の行事のメニューや旬の野菜を取り入れ食事を楽しみながら、利用者一人ひとりの力を活かし、一緒に調理から片づけまで行っている。好みにも配慮している。	
			(外部評価) 献立を職員が1週間分ずつ交代で立て、事業所で食事を作っておられる。職員は利用者の介助をしながら、利用者と同じものを食べておられた。朝食の主食は、基本的に米飯であるが、月に何度かは、パンの日を設けておられる。希望で毎朝パン食の方もいる。食材は、肉や魚は職員が買い出しに行かれ、野菜と調味料等は、配達してもらっている。利用者は、野菜を切る等の下ごしらえをされたり、お得意な包丁研ぎをしてくださる方もいる。調査訪問時は、食後、台所で食器を洗う利用者の様子がかがえた。昨年春には、職員の手作り弁当を持ってお花見に出かけられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 野菜を中心にバランスよく栄養が偏らないよう配慮し献立を考えている(職員が一週間当番制で献立をたてる)食事量や水分摂取量を記録し、不足している場合はおやつなどで補えるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行い、就寝時には義歯洗浄を行っている。義歯洗浄を拒否され難しい方もおられる。時々介助にて洗浄させてもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>排泄パターン表を活用し、定期的なトイレの声かけにより失敗しないよう支援している。声掛けの工夫も行っている。気持ちよく排泄できるよう排泄のサインを見逃さないように努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>日中はトイレで排泄できるように、誘導や声かけして支援されている。現在は、ほとんどの利用者が、紙パンツにパッドを使用して過ごされている。中には、入居時紙おむつを使用されていた方が、布パンツで過ごすまでになったような事例もある。夜間は、居室でポータブルトイレを使用する方やパッド交換で対応する方もいる。又、ご家族の希望もあって、夜間もトイレで排泄できるよう職員が誘導するケースもある。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>毎食にお茶ゼリーなどを付け食物繊維を取り入れるよう工夫している。便秘の方には、のむヨーグルトをプラスして飲んでいただく、身体を動かす(散歩、掃除など)など工夫し、服薬は便の状態に合わせて調整している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>職員の勤務体制により時間帯の変更はあるが利用者一人ひとりにあった入浴方法を支援している。声かけのタイミングや言葉を選ぶことで無理強いをせず、入浴して頂けるよう支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>夏場は週3回、冬場は週2回入浴できるように支援されている。入浴時間は、職員の勤務をみて計画されており、職員が2人勤務の時は、入浴支援を行うことが難しいようだ。入浴の際には、あらかじめ浴室を湯気で温めて準備をされている。浴槽は一般家庭のような浴槽で、浴槽をまたぐことが難しい方は、シャワー浴となっている。入浴を好まれない方には、声かけの仕方やタイミング等を工夫することに努めておられるが、10日に1度程度の入浴になってしまうこともあるようだ。ご本人は、毎朝ご自分で着替えをされる。</p>	<p>入居時には「一日おきくらいに入浴したい。」と、希望する方もおられるようだ。利用者の以前の入浴習慣等について情報を集め支援の手がかりにされたり、利用者の意向に沿い、気持ちよく入浴できる支援につなげていかれてはどうか。又、シャワー浴する利用者の方も、希望に応じて浴槽で温まることができるよう、介助方法等の工夫も試していかれてはどうか。</p>
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>個々の体調や状況に応じ昼寝を取り入れたり、自由に居室や和室で休息できるようにしている。馴染みの布団や枕を使用。自宅でベッドを使用していなかった方はベッドをはずし安心して眠れるよう支援している。また夜間空腹を訴えられる方にはホットミルクなどを飲んでもらっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々に薬剤情報をファイリングして、いつでも確認できるようにしている。変更があるときは日誌で申し送り、症状の変化に注意している。必要に応じて訪問看護師や主治医に相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や趣味などを活かし個々の能力を発揮出来る場面を提供できるようケアプランに設定し全職員が共通意識を持って支援できるように心がけているが重度化により一人ひとりにゆっくり支援することが難しくなっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 勤務体制により希望に沿えない時が続くこともあるが、出来る限り実現させようと努力している。重度化により全員での外出は難しくなっている。個別にお花見・紅葉・地方祭など外出の機会を作っている。ご家族にも協力を得てお墓参りなどに連れて行ってもらっている。 (外部評価) 天気の良い日は、事業所の近くにある国の重要文化財「下柏の大柏」の樹木まで散歩されたり、途中にある法人のデイサービスに立ち寄り、お茶をいただくこともある。ひとりで歩ける方は、食材の買出しに職員と出かけておられ、中には、荷物を持ってくださる方もいる。初詣は、5名の利用者と職員が川之江八幡宮までドライブし、お参りをされた。桜やバラ等、季節の花を見にドライブすることもあるが、利用者の介護度の重度化や職員の勤務体制等の事情で、外出支援が難しい現状のようで、管理者は、今後は利用者個々に、「少なくとも月に1度は外出できる」よう個別に支援していきたいと考えておられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望により財布を所持している方もいる。雑誌やお菓子の買い物など希望に沿って本人の財布から支払えるよう支援しているがあまり使っていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿って支援できている。特に希望が無い方にも、年賀状や暑中見舞いを書いていただいたり、プレゼントが届いたときはお礼の電話をかけていただくよう働きかけている。友達と手紙のやり取りや面会に来て頂けた方もあり今後も継続できるように支援していきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) トイレの場所が分かるように名札を掲げ、季節の花やお雛様、五月人形、クリスマスの飾りつけなどを行い季節感をかもしだしている。カーテン、加湿器にて光や湿度の調節の工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 居間の窓からは、利用者には見慣れた風景でもある製紙工場の煙突が見え、利用者は、煙が流れる方向で「今日の風向き」がわかり、話題になることも多いようだ。方向の違う窓から見える畑は、春はレンゲ畑となり、秋の彼岸頃には畦道に真っ赤な彼岸花が咲き、利用者の楽しみとなっている。食卓テーブルの上には、散歩時に近くの法人の事業所で採って来た水仙の花や、裏庭のさざんかの花等を生けておられた。「今月の行事予定」は、利用者が毛筆で書いてくださっている。廊下や居間の壁には、行事の写真を貼ったコルクボードが掛けられている。畳コーナーは、掘りごたつになっており、昼食後、こたつに入って新聞を読む利用者がおられた。又、ご家族の訪問があり、こたつを囲んでお茶を飲みながら会話を楽しまれる利用者の様子がうかがえた。ソファのコーナーでは、人形を抱いてウトウトする利用者も見られた。暖かい季節には、ウッドデッキで昼食を食べたり、夏にはそうめん流しもされた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 気の合う利用者同士で居室で寛がれたり、暖かい日にはウッドデッキで日向ぼっこも楽しめる。リビング食堂と思い思いに寛がれる居場所を工夫している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者により個人差はあるが馴染みの物、家族の写真、御主人の位牌など持ち込まれ居心地よく過ごせるように工夫している。</p> <p>(外部評価) ミシンを持ち込まれている方がおられる。使いこなすことは難しいようであるが、針と糸等、裁縫道具も用意されており、事業所で使う雑巾等を縫ってくださっている。個人で新聞を取っている方は、職員が出窓に新聞受けを作られ、利用者をご自分で取って、居室で読まれるようだ。テレビを置かれたり、こたつのスペースを作っている方もみられた。位牌を持ち込まれている方や本や雑誌等を用意され、居室で読む方もおられる。おしゃれをするのがお好きな方は、パイプハンガーにたくさん服を掛けておられた。ベッドは備え付けであるが、利用者の生活習慣に応じて、布団にされている方もあり、床にすのこを置いた上に、布団を敷いておられた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 居室前に名前と写真を掲示し(居室入口にぬいぐるみや花をつけている方)、廊下やトイレなどには手すりがある。一人ひとりの出来ることを把握・理解し安全に生活できるよう支援している。</p>	